

第5学年「家庭」の学力向上のための方策

児童の実態（成果と課題の分析）

- 成果**
- 調理や家庭生活に関心があり、家庭で様々な手伝いをしている児童がいる。
 - 清掃活動に意欲的に取り組んでいる。
- 課題**
- ▼ 生活経験の乏しい児童や複雑な家庭事情を抱える児童が多く、家庭生活を大切にする心情面や、より良い家庭生活を送るための実践面に関する指導が難しい。

指導の重点（身に付けさせたい力）

- ◇ 日常生活に必要な基礎的な理解と技能。
- ◇ 日常生活の中から問題を見出し、解決しようとする力。
- ◇ 家庭科で学習したことを日々の生活で生かそうとする力。

具体的な改善策

主体的に学習に取り組む態度のための工夫

- 基礎的な技能が確実に習得できるように、実習の時間の確保に努める。また、技能等の学習では、2学年を通して系統的に取り組む。

言語活動の工夫

- 市の食育の取り組み等と連携し、ワークシート等を活用しながら、家庭での実践に取り組み、実践を振り返りながら活動を共有することができるようにする。

ICT活用の工夫

- ICTを活用しながら、調理用具や裁縫用具、ミシンの使い方等を丁寧に指導する。

課題解決力育成の工夫

- 学習内容を生かす家庭学習の課題を設け、自分の生活に学習したことを生かそうとする態度を育てる。

達成目標

- 家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- 日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。
- 家庭生活を大切にする心情を育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。